

夕刊

行發日四十二月九
九月九日
日曜
(刊休日)

炭礦民俗誌續稿

山口 彌一 郎 (九)

大炭礦は統制上既に女子二制位天引即ち頭をばねる
廣止の方針で社宅には世帯の食料、日用品
役を置き一人八十十様の冠活必需品は飯場に於て販賣
婚葬祭を司り、或は親和會、差引かれる。現金を所持し

心臓の結び
水野 發陽
發石の様に固い心
倒れても死なぬ強い意志
戀の傷手にはおさへが
ひとりでに知らぬ間に
びびりゆく

高橋是清
(26) 松浦 泉三郎作
(佐々木今御昔齋
(五)
組合した掌の上に額を支
へて聞かぬがイアール技
師は、聞かぬと、ホツと

四、飯場

炭礦開發の初期に於ける
坑夫の募集、労働監督、坑
夫の生活統制に重要な役割
をもつた飯場の一つは飯場制
度である。常磐炭田に於て
は明治三十年頃開設と同時に
此の制度が導入された。

一すらの徑
都志見 三
○川のはとりに人はわかれのまきくべきは風にま
ぎら、水の香かも

今回行はれた燈火の管制の實施に鑑み

四倉町防衛團本部

警戒管制は「敵の飛行機
が来るかも知れない」とい
ふ、地上の光度を一段下
げ、何時空襲警報があつても
直に之に應じ得る準備の姿

都志見 三
○散りかぶる紅葉さくくよとみへる窓への女
こららむをり

高橋是清
(126) 松浦 泉三郎作
(佐々木今御昔齋
(五)
組合した掌の上に額を支
へて聞かぬがイアール技
師は、聞かぬと、ホツと



口まで運んだ茶碗を
て、是が反問した
「さうです。初めから、初
め田島技師が来て、礦山
の礦山は皆つて自分達だ
二度も調査した事がありま
す。種々の礦石を取り、分
析試験をしてみました。皆
千分の一か二に過ぎませ
んでした。千分の二を含む
腹藏のない意見を言ふ心算
石はあります。然し田島技師は早
時この事は、紐育本社へ報
告しておきました。自分は迷
つておりました。従つて
自分、我が社の日本代理
店である萬商會が、その
事實をよく知つてゐる事
から進んで言ふ事は、お仕
事、お仕事に成りますか？
それを怖れたのです」
「よく判りました」
「無然として言ふと、是清
は茶を啜つた茶は冷めて
『お氣の毒です』
『全く残念な事です』
『小池技師の話を、ガイヤ
ル技師の話を、今に疑ふ餘地もな
つた』
『失禮しました』
是清は力なく立上つてゐた

ハチマキ
功效はやく
効力はやい
試用分送呈
(ハチマキの効力)
(ハチマキの効力)
(ハチマキの効力)
(ハチマキの効力)
(ハチマキの効力)

互融會事業
近況
報自八月廿一日現在
報告八月廿一日現在
金額 六、四四五、〇〇
金額 六、四四五、〇〇
金額 六、四四五、〇〇
金額 六、四四五、〇〇

皮膚泌尿科 泌尿器科 性病科
開院
本院時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平町町山内醫院
院長 醫學博士 江尻伊三郎

關内藥局
モノサシ
体温器
寒暖計
電話四〇番

根本科醫院
平町南町五二二
根本 莊次郎
根本 貴雄
電話三四番

井坂醫院
產科
婦人科
午後往診
入院應請
平町町 (元合津醫院跡)
電話五五九番

秋の行樂と
スポーツ好季來る
ハキキ新製品半靴 六、〇〇
同 ツルクサツク 編上靴 六、五〇
ゲルトル 服装類 各、八〇より

眼鏡
最新式レンズ
各回製レンズ
(亂用眼鏡即時調製)

ラチオノ季節
月賦販賣開始
歐洲ノ風雲急!!
日支モ亦然り!!
早慶戦モ
目前ニ迫ル!
ソシテ一家
團樂ノ秋!

最新流行型
靴
栗原靴カバン店
電話二二一八

